

# 平成 26 年度事業計画

(平成 26 年 4 月 1 日から平成 27 年 3 月 31 日)

平成 26 年 3 月 5 日

公益財団法人 ダイヤ高齢社会研究財団

## 【公益目的事業1】

高齢社会における健康問題、経済問題、生きがいに関する調査、研究及びこれらに関する国際交流活動、並びにその成果を活用したシステム等の開発とそれに関連するサービス提供等の事業

### I. 高齢社会における健康問題、経済問題、生きがいに関する調査、研究

#### 1. 高齢社会における健康問題に関する調査・研究

##### (1) 介護サービスの質と管理手法の研究

- 1) 「介護 QI コンソーシアム」運営事業 (平成 21 年度～)  
介護サービスのアウトカム評価を実現するためのデータベースを構築することに賛同する介護事業法人・ソフトベンダー・学識経験者によるコンソーシアムの規模をさらに拡大する。
- 2) 「高齢者介護サービスの包括的評価に関する研究」  
(平成 25～27 年度厚生労働省科学研究費・分担研究)  
コンソーシアムの蓄積データを活用して介護の質の評価指標であるインターレイ方式の QI(Quality Indicators) を実際に算出し、その有用性を検証する。
- 3) 「ケア現場のエビデンス集積を促進する利用者データベースの構築」  
(平成 25～27 年度文部科学省科学研究費・基盤 C)  
コンソーシアムのデータベース構築のノウハウに基づき、異なるシステム環境下でアセスメントデータを収集するための共通基盤のあり方を提言する。
- 4) 「在宅介護による家族介護者の健康への影響と健康支援体制の検討」  
(平成 25 年～平成 27 年 文部科学省科学研究費・若手研究 B)  
在宅介護者への健康面からの支援対策を検討することを目的として、介護者の現状と関係機関の認識や対応状況について現状把握と分析を行う。

##### (2) 介護予防政策の研究

- 1) 「介護予防評価に関する自治体共同研究」(平成 20 年度～)  
千葉県市川市・(株)カナミックネットワークと継続中の共同研究事業の評価対象を新地域支援事業に拡大するとともに、他自治体での実施も検討する。
- 2) 「生きがい就業の介護予防効果に関する共同研究事業」(平成 18 年度～)  
町田市シルバー人材センターと継続中の共同研究を他自治体のセンターにも拡大して、センター間のベンチマーキング事業への発展を目指す。

##### (3) 高齢者の健康度に関する研究

- 1) 「うつ予防応用プログラムの開発および効果検証事業」(桜美林大学加齢発達研究所との共同研究 平成 24～26 年度文部科学省科学研究費・基盤 C)  
平成 24 年度文部科学省の助成を受けた継続研究の 3 年目であり、地域(府中市・長岡市・横須賀市・北区)在住高齢者のメンタルヘルスの維持増進を図ることを目的とし、介護予防事業のニーズにあったうつ予防プログラム効果について地域差も

含め検証を行う。

2) 「うつ予防プログラムの普及定着に向けたサポート事業」

(府中市・長岡市・横須賀市・北区受託事業)

今年度は府中市、長岡市に加え、新たに横須賀市と北区が本プログラムを介護予防施策に取り入れることになった。本年度は4自治体でのうつ予防教室の普及定着に向けた、専門職によるうつ予防プログラム実施および従事者の育成を目的とした事業を共同で実施する。

3) 「地域高齢者の精神的健康度の予後に関する縦断的研究」

(平成22～26年度、長岡市との共同研究)

平成22年度からの継続研究であり、自殺率が高い長岡市の在宅虚弱高齢者を対象に、精神的健康度の予後についてコホートによる縦断的調査を行い、今後の精神保健計画に有益な資料を提供することを目的とする。本年度は中間報告と昨年度の結果を長岡市にフィードバックするとともに、学術の場での発表も行う。また、5年目の最終追跡調査を実施する。

(4) 有酸素運動を用いた元気高齢者づくりのためのエアロビック研究

1) 平成26年度のダイヤモンド普及活動

ダイヤモンド教室、自治体主催のイベントでの指導・紹介活動を継続する(普及活動は「ダイヤモンドひばり会」に委託)。

2) 研究会の開催と情報提供誌の発行

高齢指導者の指導技術向上を目的とした「第11回ダイヤモンド研究会」を開催し情報提供誌「ダイヤモンドニュース」を発行(年4回)する。

3) ダイヤモンド・インストラクター養成講座の開催

インストラクターの資格取得の要望に応え、養成講座を開催する。

2. 高齢社会における生きがいに関する調査・研究

(1) 生きがい感研究

高齢者における子供との同居・非同居の選択に関わる心理的問題を取り上げ、その選択に係る高齢者の生きがい感や家族感について質的調査を行なう。

(2) 企業退職高齢者を対象にした「いきいき高齢者づくり」のモデル事業

当財団の賛助会員会社出身の退職高齢者の集団「ダイヤ・アクティブエイジング・アソシエーション」(DAA)の親睦・交流活動や地域社会参加・貢献活動等を「いきいき高齢者づくり」のモデルと位置づけ、調査研究を行う。

(3) 「都市高齢者の社会関係周縁部に関する研究」

(平成18年度～)

日常生活を通じて出会ったあいさつや顔見知り程度の他者といった社会関係の周縁部に位置づけられる他者について、その実態および当該高齢者に及ぼしている影響について定量的に検証する。

平成25年度に行った小規模なパイロット調査の結果をもとに、平成26年度は、都市

部の一般在宅高齢者を対象にした大規模調査を行うことを予定している。同時に、パイロット調査の分析を進め、論文として投稿する。

(4) 「中高齢者の交流媒体としての電子メールに関する研究」 (平成 23 年度～)

高齢期の社会的孤立防止の観点から、社会関係を取り結ぶ他者たちと交流するための媒体(交流媒体)としての電子メールに焦点を当て、その利用実態を明らかにすべく、平成 23 年度～25 年度まで文部科学省科学研究費をうけて調査研究を行ってきた。

本年度は、これらの結果をもとに、シニア社会学会のシニアの ICT 活用研究チームと連携し、東京都江戸川区で社会実験を行う。

(5) 「ICT(情報通信技術)を活用した高齢期の社会活動継続に関する研究」

(平成 23 年度～)

中年期から日常生活においてインターネットを活用してきた人々が高齢化していくなかで、後期高齢期においても活動を継続していくための ICT の可能性について明らかにしていく。

本年度は、ICT 活用に主体的に取り組むシニア団体(ダイヤネット)と共同でとり進めてきた「後期高齢期におけるタブレットの利活用に関するアクションリサーチ」の結果をもとに、全国の同種のシニア団体の後期高齢会員を対象にしたインタビュー調査を計画している(平成 26 年度文部科学省科学研究費に申請中)。

(6) 「杉並区健康長寿モニター事業」

(平成 24 年度～)

東京都杉並区が健康長寿の秘訣をさぐることを目的に、平成 24 年度から、80 歳区民を対象にした 5 年間の追跡調査を実施している。この調査に委員として参画するなかで、平成 26 年度は、平成 24 年度に実施された初回のアンケート調査の結果に加え、医療費・介護保険のデータの分析を行っていく。

### 3. 国際比較を枠組みとした調査・研究の実施

(1) 「国際保健事業の長期的評価のための調査研究」(平成 22～29 年度)

平成 22 年からの継続研究であり中国農村部の保健医療福祉政策に有益な資料を提供するために、中国東北農村地域の中高年者を対象に健康度及びライフスタイルについて包括的研究を実施する。今年度は、健康度に影響するリスクファクターを明らかにすることを目的とし、縦断的研究を実施する(データは延辺大学・琿春市幸福中高年活動センターの協力)。

(2) 「日中韓における高齢者の不眠に対する非薬物療法の開発および効果の実証研究」

(平成 26 年度、三菱財団自然科学研究助成・申請中)

本研究は中国医学を応用したリラクゼーション法および高齢者でも負担なくできる軽運動の快眠ストレッチ法による快眠プログラムを開発し、日中韓において一般高齢者を対象に、その介入効果を検証する。同時に実証研究を通して妥当性と普遍性を確認

し、予防の観点から、高齢者の不眠の予防と支援策に応用できるツールを確立することを目的とする。

#### 4. 高齢社会と企業に関する調査・研究（ダイヤ高齢社会研究財団 設立 20 周年記念事業）

財団設立 20 周年記念事業の一環として、平成 24～25 年度に実施した「超高齢社会における従業員の働き方と企業の対応に関する調査」の結果について、関連学会への論文投稿および学会発表を行う。また、上記調査の周辺分野に関わる定量調査を実施し、本分野における研究を継続する。

## II. I. に関する研究成果の発表等

### 1. 論文

- 1) 生きがい就業と介護予防をテーマした論文を「病院設備」の介護予防特集号に寄稿予定（石橋）
- 2) 「80 歳都市高齢者の日常的交流の実態」、「都市中高齢者の交流媒体としての電子メール利用状況」、「ICT を活用した後期高齢期の活動継続」関連論文投稿予定（澤岡）
- 3) 「ポジティブ心理学的アプローチによるうつ予防・支援の介入効果検証」関連論文投稿予定（兪）

### 2. 関係する学会への参加・研究成果の発表

- 1) 第 128 回日本社会政策学会春季大会（平成 26 年 5 月 31 日～6 月 1 日、東京）
- 2) 第 56 回日本老年社会科学学会大会（平成 26 年 6 月 7 日～8 日、岐阜県下呂市）
- 3) 第 29 回日本老年精神学会学術集会（平成 26 年 6 月 12 日～13 日、東京）
- 4) 第 56 回日本老年医学会学術集会（平成 26 年 6 月 12 日～14 日、福岡）
- 5) 第 18 回世界社会学会議（平成 26 年 7 月 13 日～19 日、横浜）
- 6) 第 13 回日本ケアマネジメント学会研究大会（平成 26 年 7 月 19 日～20 日、東京）
- 7) 第 32 回日本都市社会学会大会（平成 26 年 9 月 11 日～12 日、東京）
- 8) 第 52 回日本医療・病院管理学会学術総会（平成 26 年 9 月 13 日～14 日、京都）
- 9) 2014 年度世界精神医学会（平成 26 年 9 月 14 日～18 日、マドリッド）
- 10) 第 27 回日本健康心理学会大会（平成 26 年 11 月 1 日～2 日、沖縄）
- 11) 第 73 回日本公衆衛生学会総会（平成 26 年 11 月 5 日～7 日、宇都宮）
- 12) 第 62 回日本社会福祉学会 秋季大会（平成 26 年 11 月 29 日～30 日、東京）
- 13) 第 79 回日本民族衛生学会総会（平成 26 年 11 月 14 日～15 日、つくば）
- 14) 第 19 回日本在宅ケア学会学術集会・総会（平成 26 年 11 月 29 日～30 日、福岡）

## III. I. の成果を活用したシステム等の開発

予定無し

## IV. III. に関連するサービス提供等の事業

予定無し

## 【公益目的事業2】

### 高齢社会の諸問題に関する意識啓発および活動成果の普及

#### I. 意識啓発事業

##### 1. 財団主催シンポジウムの開催

平成26年度は、一般向けと専門家向けの2件のシンポジウムを企画。

①一般向け企画：「超高齢社会における従業員の働き方」をテーマとした講演会を10月～11月に開催予定。

②専門家向け企画：石橋プロジェクトの関連で開催予定

##### 2. 社会老年学文献データベース(DiaL)

###### 1) 論文の追加収録・更新予定

6ヵ月毎のペースで、年2回の更新を行う。

第25回更新 (H.26/6末) H.25/7～12発行分追加

第26回更新 (H.26/12末) H.26/1～6発行分追加

###### 2) 編集会議(H26/12月頃)の開催とリーフ(改訂版)の作成を予定

#### II. 活動成果の普及

##### 1. 刊行物発行等の広報活動

###### 1) 「ダイヤ財団新書35」の発行

財団主催シンポジウムの講演録として発行(平成27年3月)

###### 2) 広報誌「Dia News」の発行。年4回(4、7、10、1月)

平成26年度も、昨年度に引き続き財団職員及び関係者の執筆を中心に編集予定

###### 3) 「平成25年度活動報告書」の作成とHPでの公開(平成26年6月)

###### 4) 「ダイヤ財団新書」の電子書籍としての提供を検討(平成27年4月～)

###### 5) ホームページを通じた情報提供

財団創立20年を期に実施した財団の研究事業の広報活動の充実化をさらに推進し、研究者及び研究内容の紹介の深化と、分かりやすい表示・記載を目指す。

##### 2. 賛助会員会社との連携強化

###### 1) 第5回事業報告会の開催

財団の賛助会員会社に対する事業説明会を11月に開催予定。

以上